

2019

JAHFA
JAPAN AUTOMOTIVE HALL OF FAME

論壇

Contribution to
JAHFA



マツダ ロードスター： 「だれもが、しあわせになる。」

マツダ株式会社
ロードスターアンバサダー
山本 修弘

マツダロードスターというクルマを30年の長きにわたって造り続けることができたのは、お客さま、ファンの皆さまにご支持をいただいたおかげです。

マツダは、30年前にこの小さなオープンスポーツカーを世に送り出しました。しかし、ロードスターの楽しみ方を見つけ出してくださったのはファンの皆さまです。マツダはそこから教えられ、たくさんのことを学びました。

100万台以上を世界中にお届けしたいま、私たちが思うのは、「ロードスターはもはやマツダのものではなく、お客さまのものである」ということです。

私たちの使命は、お客さまの期待にお応えするだけでなく、期待を超えるクルマづくりに挑戦し、ファンの皆さまとともにロードスターを育て続けていくことだと考えております。そして、ロードスターと共に、マツダ車をご愛用いただくすべてのお客さまの心に向き合い、「共に走り、共に歓ぶ」ことのできるパートナーであり続けます。さらに、日本の自動車文化の発展に貢献したいと願っております。

私とロードスター

私自身、ロードスターの開発に22年前から携わり、

そのうち9年間で3代目と4代目の主査として過ごしました。当初開発副主査として携わった3代目の開発は、初代からの「人馬一体」と「Lots of Fun」のコンセプトを継承し、特に軽量化とハンドリング開発に多くの労力を割きました。その後、4代目の開発ではSKYACTIVテクノロジー、魂動デザイン、モノ造り革新など、マツダの最新技術に加え、全社を挙げて「共創」に取り組みました。クルマの性能や商品力だけでなく、ロードスターの魅力である「運転する楽しさ」を目指し「感」創りを最大のテーマとして挑戦しました。4代目の開発メッセージに掲げた「守るために変えていく」は、クルマだけでなく、ものづくりの未来につながるものだと信じております。

お客様に支えられた30年

ロードスターの30年間は、このクルマを愛するファンあってこそその歴史です。初代ロードスターが発売されると有志によるクラブが世界各国で作られ、ミーティングやツーリングなどが自主的に開催されました。世界中のファンに愛されているロードスターは、各国ごとに多彩なイベントが行われています。ロードスターのみで集まるイベント、レーストラックでの走行会、



初代ロードスターのカタログにあるメッセージ「だれもが、しあわせになる。」



ロードスター30周年記念ミーティングで3600人のファンと共に。マツダ三次試験場2019.10.13.



NAロードスター レストアトリアル車



NAロードスター レストアトリアル車
Vスペシャルのインテリア

ギネス記録へのチャレンジから気軽なツーリングまで、きつとこの週末もどこかでロードスターの集まりが行われていることでしょう。

初代ロードスターレストアサービス

マツダは、初代ロードスターのレストアサービスと復刻パーツの供給を2017年12月に開始しました。マツダが行うレストアサービスは、単にクルマを修理し、新しい状態に戻すことだけが目的ではありません。初代ロードスターに長く乗り続けたいお客さまのニーズに応えるという信念を持ち、同時にロードスターへの愛情を永遠に持ち続けてほしいと願っています。さらにはクルマを長く愛し大切に社会や文化を育みたいという強い思いを持っています。そして、古いクルマ

であっても新車同様の純正部品の品質で長く乗り続けられる安心と喜びを提供することで、人生をより豊かにし、お客さまとの間の特別な絆を守り続けることを目指しています。

ロードスターの進むべき道を迷ったとき、私たちにいつも立ち返る言葉があります。それは、初代ロードスターのカタログの冒頭に書かれたひとこと。

「だれもが、しあわせになる。」

この言葉とお客さまへの感謝の気持ちを胸に、私たちはこれからも常に皆さまが、そして私たち自身も笑顔になれるようなロードスターを世に送り出し、ともに楽しみ続けることができるよう、飽くなき挑戦を続けてまいります。